



## 総務文教常任委員会行政視察報告

仲田 強



日程 : 平成28年6月9日

視察先 : 四万十市不破上町1949番地1「スクールミール中村南」

議題 : 学校給食センターについて

- ① 実施に至るまでの経課
- ② 実施に向けての課題と取り組み
- ③ 現在の状況（給食費の納入、保護者や子供の様子）

旧中村市においては、既に取り組みが早く、昭和33年に中筋小学校で、(自校方式)で実施されていた。その後平成3年に中村市学校給食検討委員会が設立されたものの「当分の間断念」との報告を受け、その後、平成8年市長公約で、実現化に取り掛かる。平成9年保護者、教職員等による研究会を設立。平成10年アンケート調査、保護者の7割近くが実施を希望との結果。それを受けて平成11年「中村市学校給食研究会」から、「より望ましい形で学校給食を実施すべきである」との提言がなされ、翌12年に基本計画策定検討会が設立。翌13年基本計画策定、施設・調理機器・運営方法・地場産品活用・無滅農薬食材活用・について記載。施設は、共同調理場方式とし、4か所に設置(4校に併設)、当面は、「ひがしやま」で4校に配送。以降、順次設置・運用を行う。翌14年「スクールミールひがしやま」運営開始。その後、全ての小中学校で自校方式による給食がされていた西土佐村との合併や学校統廃合等により計画の見直しが必要となり。平成18年に「四万十市学校給食推進計画検討委員会」が設立され、意向調査により、翌19年に実施計画策定。平成21年「スクールミールなかむらみなみ」運用開始、翌23年「スクールミールにしとさ」運用開始、中学校給食についても平成28年「スクールミールぐどう」の運用開始によって、全ての市立小中学校で給食が完全実施。(小学校14校1,850人・中学校11校980人)共同調理方式25校(給食センター4施設)調理・配送業務は3年契約で(株)メフォスに委託。適正な給食運営に関してや、食教育の推進に関しては、先進地に倣って取組まれているように窺えた。特筆する点で、市内生産者等で組織する「環境にやさしい農業のための研究会地産地消推進部会」との契

約のもと、無減農薬野菜及び米を購入できる体制が整っていることである。又野菜くずや残さ等の堆肥化を行い推進部会に肥料提供されている点は見習うべきと感じた。給食費の収納率は98,2%とのことで26年度末滞納額は累計で1000万円に達している。西土佐などでは以前は、未納者はいなかったが振り込み制になってから未納者がでてきているとのことであった。今回の視察は、議長を始め担当所管の職員も同行したことで委員を始め職員の質問等、設計真ただ中の本市にとって得るべき点が多くみられた。4施設の概要に関して、構造・床面積・調理能力・建設費・委託従業員・等々比較検討もできたことで、今後活かされるものと思う。